

公益社団法人日本金属学会の組織と活動概況

公益社団法人日本金属学会は1937年に創設され、2023年2月末時点の会員数は国内外合わせて4,650名、156団体で、金属及びその関連材料に関する研究成果を世界に発信する学会として活動を展開しています。組織図に示すように、最高議決機関である「社員総会」、業務執行決定機関の「理事会」、業務監査機関の「監事」の下で、「委員会」、「支部」、「事務局」により、学術誌や学術図書の刊行、講演会や講習会の開催、調査や研究、表彰や奨励の事業を行っています。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が5類感染症に移行したことにより、2023年は春期講演大会、秋期講演大会、研究集会を始め、大部分の活動が対面に復帰しました。その一方で、開催や参加に対する空間的、時間的な制約が少ないオンラインの利点を生かして、セミナーや講習会、会議等はオンラインと対面とを併用して実施しました。

刊行事業では、機関誌および学術図書類を刊行しています。

会員の情報交換や啓発・教育を目的として、2023年也会報「まてりあ」を毎月刊行し、会員に配布しました。「入門講座」、「講義ノート」といった学びの支援や、「特集」、「最近の研究」、「新技術・新製品」等のホットな研究や開発に関する解説に加えて、近年は魅力ある会報に向け、社会の中で見られる金属を紹介する「巻頭記事」、各金属元素の物理的や化学的特徴等を紹介する「金属素描」、物性等の金属にまつわる様々な数値をグラフにして可視化する「金属なんでもランキング」、「あのころ」のまてりあ、「実学講座」、「思い出の教科書、この一冊!」、「科学館めぐり」、優秀高校生ポスター賞等の受賞者に発表体験を通して感じたことなどを書いてもらう「スポットライト」、「先達からのお便り」等の多彩な記事を掲載しました。

論文誌として、和文の学術論文誌「日本金属学会誌」および英文の学術論文誌「Materials Transactions」を毎月刊行して、研究成果を国内外に広く発信しています。Materials Transactionsは日本の材料系学協会と共同刊行していますが、2023年に共同刊行学協会が15学協会になりました。日本金属学会誌では年間約30編の論文を掲載していますが、近年は投稿・掲載数の減少が続いており、2023年も冊子を2号ずつ合併して発行せざるを得ませんでした。Materials Transactionsでは年間約300編の論文を掲載しています。Materials Transactionsの2022年インパクトファクターは1.20と3年連続で1.2を越えました。

金属及び関連材料に関する専門書や教科書等の「学術図書類」を刊行しています。既刊図書の電子化を行って、一部は電子書籍として販売しています。また、電子化した図書は、一部を除いた37タイトルの電子書籍を会員へ無料公開しています。

講演会・講習会事業では、「講演大会」、「教育講座」、「シンポジウム」、「講習会」を開催しています。

最新の研究成果を発表・討議するとともに、会員間の交流

を図ることを目的として、春秋2回の「講演大会」を開催しています。2023年は4年ぶりに春期講演大会(東京大学)、秋期講演大会(富山大学)ともに対面で開催しました。春期講演大会は630件の講演、1,100名の参加で、秋期講演大会は1,000件の講演、1,560名の参加があり、COVID-19前の水準にはほぼ戻りました。講演大会では受賞記念講演、特別講演、一般口頭講演、ポスター発表、高校生ポスター発表、公募シンポジウム講演、企画シンポジウム講演、国際セッション講演、日本鉄鋼協会との共同セッション講演が行われました。学生の進路選択の参考にするために、春期公講演大会では「ランチタイム学生キャリアサポートセミナー」を開催し、秋期講演大会では「企業ポスター展示」をポスター会場にて開催しました。また、会場では機器メーカー等による「機器展示」、「ランチョンセミナー」を開催しました。

若い世代に材料に関する関心を高めてもらうきっかけとするために開催している「高校生・高専学生ポスター発表」は、発表者の利便性を考慮して、対面とオンラインを選択して発表できるようにして2日間開催しました。春期41件、秋期10件の発表がありました。

「セミナー・シンポジウム」では、2022年から開始した「オンライン教育講座」を2023年は5テーマ開催しました。さらに、録画した講座の見逃し配信やオンデマンド配信を開始しました。「金属学会シンポジウム」は1件を開催しました。

「国際会議」はこれまでに25件を本会主催で開催していますが、2023年の開催はありませんでした。なお、環太平洋の5か国が持ち回りで開催しているPRICM 11が韓国で開催され、本会は共催学会として、多くの研究者が参加し、講演を行いました。

調査・研究事業では、関連が深い専門分野の研究者や技術者が集う9つの「分科」で「調査研究委員会」の活動を行っています。ほかに、重要な運営に関する「企画委員会」や「戦略推進委員会」、「国際学術交流委員会」、「男女共同参画委員会」等が設置されています。

先端領域や学際的領域の研究を促進する目的で10件の「研究会」と3件の「若手研究グループ」が活動しており、「研究集会」等を開催しました。さらに分野を超えた取り組みを強化すべき課題に対して産・学が連携して取り組んでいくことを目的として、2022年に創設した「産学協創研究会」は、4テーマ(マテリアルズインテグレーション、カーボンニュートラル、アディティブ・マニファクチュアリング、新材料・新機能創製)が活発に活動しています。また、学術・技術の発展や若手研究者の奨励を目的とした助成事業として「フロンティア研究助成」を行っており、2023年も10テーマの研究に助成金を交付しました。

さらに、金属及び関連材料分野の振興に向けた材料戦略活動、次世代を担う人材の教育や育成を目的とした「人材育成」活動、女性の社会進出を支援するための「男女共同参画」活

動を行っています。

国際学術交流活動として、米国 TMS との講演大会へ研究者の相互派遣、韓国 KIM との共同シンポジウム開催を再開しました。さらに2022年に開始した、インド・環太平洋諸国との連携を強化する目的の第2回「国際セッション」を秋期講演大会で開催し、インド、中国、韓国、オーストラリア、タイ、インドネシア、台湾、日本の講演者22名による講演発表が行われました。また、新たにインド IIM との講演大会への研究者の相互派遣を開始しました。

表彰・奨励事業では、「名誉員」や「学会賞」を始めとして、「各種賞」を授賞しています。

優れた研究や技術開発の成果を上げた者や当該分野の発展に寄与した者の表彰や今後の貢献が期待される者の奨励を目的として、2023年も例年通り17件の表彰・奨励を行いました。また、1名の金属学会フェローを認定しました。

全国の8つの「支部」での活動も再開し、各支部で講演会、講習会、研究会などを活発に実施しました。

日本金属学会は21世紀の日本を背負って立つ研究者や技術者の入会を大いに歓迎します。会報「まてりあ」は、会員にのみ提供されます。さらに、会員には、講演大会への会員参加費での参加及び登壇費の免除、刊行物の会員価格での購入、本会主催のセミナー・シンポジウム・講演発表会等への会員割引価格の参加等の特典があります。

また、小中高校生や大学3年生相当までの若い世代の皆さんに金属材料に関する研究や開発の世界に触れてもらい、金属材料の面白さを知ってもらうことを目的に、入会金・年会費無料の「ユース会員」を設けています。会員になるといろいろな特典がありますので、会員の皆様のご子弟の方々にお知らせしていただき、ユース会員になっていただけるようにお勧めください。

